大正デモクラシーと社会運動

大正時代、人々はどのように政治や社会に参加しようとしたか

米騒動（1918年）

物価の上昇で米の値段が
上がり、全国に広がる

政党内閣（1918年）

原敬が、大部分の大臣を
政党の党員で組織する

民本主義

吉野作造が、民衆の考えを
政治に生かすことを説く

さまざまな社会運動

労働運動

労働者が団結して、
賃金や労働条件の
改善を求める

農民運動

小作人が小作料の
引き下げを求める
（日本農民組合 1922年）

女性運動

平塚らいてうらが、
女性の地位向上や
政治参加を求める

部落解放運動

差別に苦しむ人々が
全国水平社をつくる
（1922年）

普通選挙法（1925年）

納税額の条件をなくし、
25歳以上のすべての男子に選挙権

治安維持法（1925年）

同じ年に定められ、
社会運動などを取りしまる

年は教科書で一般的な表し方。人物の姿は描いていない。運動の評価は加えていない。